



「第3回 (仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議」の報告

平成28年11月15日、豊島区役所・としまセンタースクエアにおいて、第3回(仮称)マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議が開催されました。高野区長ほか、里中満智子座長をはじめとした委員、オブザーバーの計25名が参加しました。



1. 高野区長挨拶

前はワークショップを行い、多くのアイデアをいただきました。今回はいただいた様々なご意見を委員の皆様と共有し、ミュージアムの具体的なプランに落とし込んでいきたいと思っております。

ご検討いただいているミュージアムの整備計画は、来年1月頃に素案をお示しできるのではないかと考えております。大変タイトなスケジュールですが、皆様方にはぜひご協力をいただければと思っております。

2. 議事

(1) ワークショップの結果報告

第2回検討会議において実施した、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムにおける事業活動のあり方を考えるワークショップで挙げられた主な意見を、事務局より報告しました。

(2) (仮称) マンガの聖地としまミュージアムの基本理念、展開する事業活動について

事務局より、これまでの協議や事業の背景を踏まえて作成した、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムの基本理念及び基本方針(案)を説明しました。さらに、展開する事業活動とその基本的な考え方(案)を示すとともに、実施に必要な施設機能(案)を説明しました。加えて、事業活動や施設機能の検討に向けた参考資料として、施設のゾーニングレイアウトの一例を説明しました。

これらの資料をもとに、各委員による意見交換が行われました。

(3) 委員からの提案

委員より、以下のご提案がありました。

- ・石森先生が会長を務めた東日本漫画研究会で発行していた肉筆の同人誌『墨汁一滴』は非常に貴重なものであるため、ぜひ複製を作成し、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムで展示・閲覧できるようにしてほしい。
- ・東日本漫画研究会のメンバーと連絡を取ることができる。こうした方々に集まってもらい、トキワ荘の思い出を語ってもらう機会を設けてはどうか。

委員の主な意見

■基本理念・基本方針(案)に対する意見

- ・利用者像として、トキワ荘ゆかりのマンガを読んだ世代が想定される。年配の方たちが楽しめるようなあり方を検討すべき。
- ・若い人からお年寄りまで幅広いファンがいる。

■事業活動計画(案)に対する意見

- 情報発信事業
 - ・学芸員を配置しないのであれば、来館者からの専門的な質問に対応できる仕組みを検討しておく必要がある。
- 展示公開事業
 - ・トキワ荘で生まれた文化は何か、トキワ荘の存在は日本のマンガ文化にとって何だったのかを将来に残すことが求められている。
 - ・どんなに優れた展示でも、常設展示だけでは飽きられてしまう。定期的な展示替えを行う必要がある。
 - ・トキワ荘で描かれた作品に刺激を受けたマンガ家による今の作品を紹介することも面白いテーマになる。
 - ・トキワ荘ゆかりの作品を紹介し、今の人々に気づいてもらうことが、価値を再生することにつながる。
- 教育普及事業
 - ・何度も利用してもらうためには、今のマンガを紹介したり閲覧できる機能も必要。
- 回遊促進事業
 - ・「トキワ荘前」というバス停を設置してはどうか。
 - ・「椎名町5丁目」の地名を復活できないか。
 - ・ミュージアムへの案内サインや、街中でマンガを感じられるしかけがあるとよい。
 - ・マンガの聖地と池袋周辺のアニメの聖地をつなぐ視点が必要。
- 利用者サービス事業
 - ・飲食サービスはおもてなしとして重要。提供できるよう、まち全体で機能確保や協働体制づくりを行う必要がある。

■施設のゾーニングレイアウト例に対する意見

- ・トキワ荘の外観と2階のマンガ家の方々の住居は、当時の生活感を含めてそっくり復元してほしい。
- ・マンガ家の部屋の復元は、それぞれのマンガ家の記念館にある。2階全部の再現は不要。
- ・再現する部屋数については、来館者の意見等も参考にしながら増減させるなど、長期的に対応していくことも可能。
- ・復元空間において展示を行う手法もあるのではないかと。

■委員の提案に対する意見

- ・『墨汁一滴』は非常に価値のあるものであり、できれば多くの人に見てもらいたいが、全員の許可をとらないと複製を作成できない。著作者や著作権管理者の皆様にご理解いただけるよう、努力していく必要がある。